

岩美病院

だ よ い

2011 7・8



特集：宮城県石巻市ボランティア報告

救命訓練をおこないました。



宮城県石巻市ボランティア報告



岩美病院薬剤師 津村 慎一

去る5月9日～14日の期間、宮城県石巻市においてボランティア活動をおこなってきました。

いきさつは、日本薬剤師会がボランティア活動できる薬剤師を全国で募集しており、これに応募したものです。

各地域（中国地方、九州地方など）で3～4名のチームを作り、被災地での医療の手助けをおこなうことが主な任務でした。我々中国ブロックチームは、岡山県から1名、広島県から2名、私の合計4名が東京に集合し、1台のレンタカーで石巻市へ向かいました。誰もが初対面だったので最初はぎこちなかったのですが、一緒に車に乗っていると次第に打ち解けてきました。行きは私が運転しましたが、首都高速道路は鳥取とはケタ違いに車の数が多くて、とても緊張しました。

現地に到着すると早速、OTC（店売り）医薬品を各避難所に届けるという任務が待っていました。ゴールデンウィーク明けの時期でまだ少し肌寒だったのですが、衛生環境が悪いせいか、ハエや蚊などの虫が大量発生しているようでした。いたる所へ殺虫剤や虫よけスプレーを配達しました。風邪薬やシップなどの需要は少なかったように感じました。

次の日からは、「渡波（わたのは）小学校」という避難所に派遣されました。この周辺は海から比較的近いため、まわりのほとんどの家が被災されました。小学校のほとんどの教室、体育館が避難所となっており、ここに通っていた小学生は、毎朝バスで違う小学校へ通っていました。小学校保健室では、名古屋大学や岐阜大学などの大学病院や全国各地の日赤病院のチームが4～5日交代で外来診療をおこなっており、我々は、そこでの調剤を担当することになりました。限られた医療用医薬品（病院などで処方される医薬品）の中での診療ということで、医師・看護師もいつもとは勝手が違います。

例えば、医師からの「〇〇〇という薬はありますか？」という質問に対し、薬剤師が「〇〇〇はないようです。△△△ならありますが、いかがでしょうか。」と返答する。ということが幾度となくありました。

医療チームのメンバーは、見ず知らず同士ではありましたが、お互いの職種を尊重し、絶妙の連携で業務をおこなうことができました。

避難所には全国から届けられた OTC（店売り）医薬品がたくさんありましたが、それを適正に管理できる人がおらず、体育館の一画にはたくさんの医薬品が「ご自由にお使いください。」という状態になっていました。無秩序に使用されている OTC（店売り）医薬品を見るにつけ、薬剤師としてこれではいけないと考え、私は体育館に置いてある医薬品の種類を大幅に減らすことにしました。そして、ひとつひとつの医薬品に対して「胃がムカムカするときは□□□、咳が出るときは☆☆☆を服用してみてください。効果がなければ早めに診察を受けましょう。」と大きく貼り出しました。

そんなこんなで数日が過ぎ、とうとう岩美へ帰る日となりました。

自分なりに精一杯頑張ったつもりですが、たった数日間しか滞在していない状態では、正直「お役に立てた。」という充実感を感じることはできませんでした。やっと慣れた頃に帰らなくてはならないジレンマと、中途半端なことしかできなかった自分を残念に思いながらの帰宅となりました。

石巻市では、飲食店やスーパーなどが徐々に営業を再開し、一見すると復興のきざしが見え始めたように感じました。しかし沿岸部では、未だに瓦礫の撤去がほとんど進んでいません。（瓦礫の中には死体がたくさんあるため、自衛隊しか関わることができず、大掛かりな撤去作業ができないようです。）仮設住宅の建設も思うように進まず、避難所での生活をいつまで続ければいいのか？まだわかっていません。これから夏になり暑さが増すなかで、エアコンなしの避難所生活は想像を絶します。また、環境衛生面でのトラブル（食中毒など）も心配です。

さらに、地震による地盤沈下により、雨天時、満潮時はかなりの道路が冠水してしまいます。台風の時期になったら、いったいどうなってしまうのか？考えるだけでゾッとします。地盤沈下を修復するには、道路だけでなく家屋も地上げせねばならず、いったいどれだけのお金と時間がかかるのか？想像もつきません。

テレビや新聞では「復興」という言葉がさかんに出てきますが、沿岸部の一部では、住むことを諦めざるを得ない場所もでてくるのではないかと思います。（復興ムードに水をさすようで申し訳ありませんが）また、石巻市は平野部が広く、建物もたくさんあるため、ボランティアを受け入れる場所が確保できていますが、女川町などの山に囲まれた町は大きな建物がないため、ボランティアが常駐できず、瓦礫の撤去もあまり進んでいません。（女川町は岩美町、女川港は網代や田後みたいなところだと思ってもらえればイメージしやすいと思います。）

まだまだ東北再生の道のりは険しい・・・という印象でした。

今後もまだまだ皆さま方のご支援が絶対に必要です。少しの額でもいいので募金にご協力いただければ幸いです。

石巻市のようす

●山頂からの沿岸部の写真



沿岸部は壊滅的な状況でした。鉄骨の建物だけが残っていました。



北上川河口周辺も大打撃を受けました。
津波で川は逆流しました。

●平地での沿岸部の写真



生活の跡がそのままの姿で・・・

瓦礫の高さは3メートルくらいありました。



自衛隊が瓦礫の撤去をおこなっていました。



被災にあった自動車です。
津波の威力は想像以上でした。

●避難所の小学校での写真



避難者は各教室、体育館での生活を余儀なくされていました。小学校が使えないため、小学生はバスで他校へ通っていました。

自衛隊が炊き出しをおこなっていました。
おかげで避難者の栄養状態も改善されつつあります。



グラウンドに設置された仮設風呂です。



保健室には診療所が
仮設されていました。

診療所に配置されたおくすりです。
症状別に分類してあります。



救命訓練を行いました



当院では救急救命士により年2回の救命訓練を行っています。意識のない方に遭遇した場合の119番通報・AED手配・人工呼吸・心臓マッサージ・AED装着など人形を使用し実施しています。頭ではわかっているにもかかわらず実際にその場に立ち会った時にパニックにならずに行動に移すことができるかが問われます。そのためには、知識を身につけ素早い応急処置が出来る

よう定期的な訓練は欠かすことはできません。近年学校や職場でもAED・心肺蘇生を実施しているところがほとんどです。また、マスコミ等でも救急対応が大きく取り上げられています。

先日あるニュースを耳にしました。小学3年の男子が川で溺れた時、ある一人の主婦がペットボトルで人命救助したということでした。その主婦は以前から災害に備え、空のペットボトルを用意していたそうです。テレビでペットボトルを抱えることにより水中で体が浮き救助できるという知識があったようです。そして偶然にも家の近くの川で溺れの場面に立ち会うことになりました。主婦はとっさにペットボトルが脳裏に浮かび自宅に取りに帰り溺れている子供に向かって投げ、その子供はペットボトルを抱えることで助かったということでした。成人でも2.0リットルのペットボトルを抱えることで体が浮くそうです。でもその時にも決してあわててはいけません。そのために溺れた時の訓練も必要かもしれませんね。素早い判断をして人命救助を成し遂げた主婦にエールを送りたいと思います。



編集後記

この度の地震により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様そのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

宮城県石巻市へ岩美病院からも2名の職員がボランティア参加をしており、今回は津村薬剤師の報告となりました。

災害直後には、事務室 中村主事が災害応援隊として派遣されています。

町の水道管が破裂し、数日間給水車に頼る生活をただけでも不自由だなあと感じた私は、その時に被災地での生活がどんなに過酷なものか初めて分かったような気がします。

これから暑くなる季節、熱中症に気をつけ水分をこまめに摂り、体調管理に気をつけて毎日を過ごしましょう。

(津村、太田、山田、川口)

